

## 「令和6年能登半島地震」 発災・被災・そして現在の状況～

石川県老人保健施設協議会 事務局  
中嶋 顕一

### 【老健協議会の発災後の主な活動】

- 各施設の被害状況及び経過と要望について確認・対応
- 被災者受け入れ施設の要望等確認・対応
- 各施設の状況および必要な情報について各施設へ伝達共有
- 各施設の状況について全老健・石川県に報告・提案
- 石川県・全老健からの要請対応及び各施設への伝達
- 支援物資の受け入れ及び調達・配送
- 被災施設の利用者避難の一部マッチング
- 被災施設の利用者移送支援

## 【発災直後～】



### 【金沢春日ケアセンター】 7階建て複合施設

- ・老健（定員240名）
- ・ケアハウス（定員110名）
- ・グループホーム（定員18名）
- ・ショートステイ（定員15名）

他

## 【発災直後～】



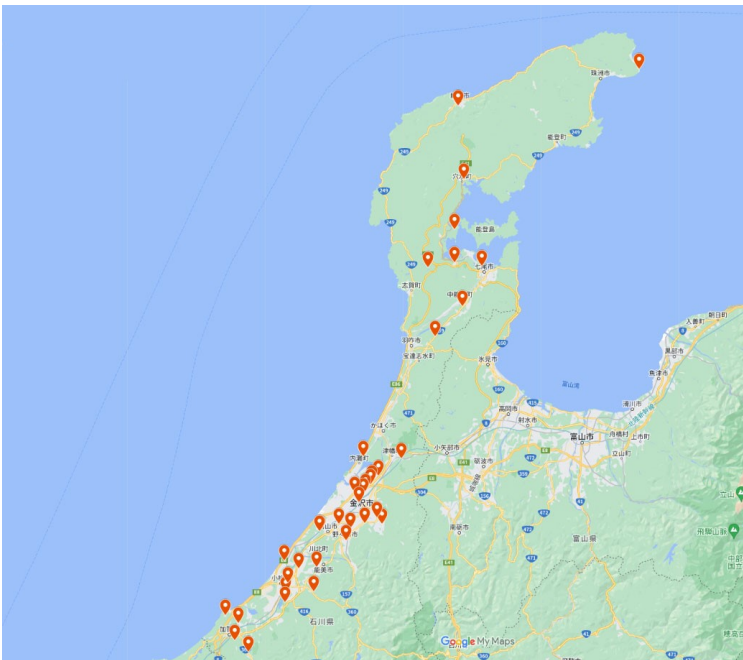
### 自施設の発災時の被害状況

- ・屋上看板が崩落
- ・下階の避難出口のガラス・手すりを破損
- ・館内配管破断による天井からの水漏れ
- ・給湯配管の破断によるボイラー停止
- ・エレベーター停止
- ・上水道の水の混濁 等

【発災直後～】

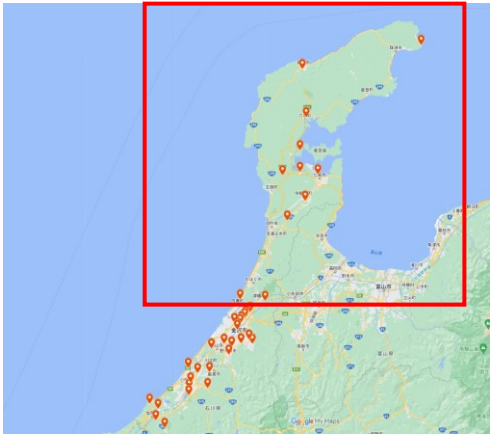
	1/1 (1日目)	1/2 (2日目)	1/3 (3日目)	1/4 (4日目)
EV	停止	○	○	○
水	×	×	×	○
食事	○	×	×	○
給湯配管 (入浴)	×	×	×	×

石川県内の  
老健施設



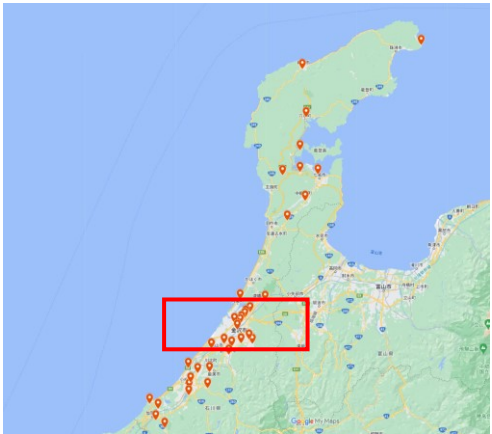
【情報確認活動】 各施設の被災状況

	施設住所	電話連絡	入所者	職員	建物	ライフライン					
						電気	ガス	水道	食料	暖房	その他
1	珠洲市	×		×	×	×	×	×	▲	×	
2	輪島市	×		×	×	×	×	×	×		
3	穴水町	×		×	×	×		×		×	
4	七尾市	×		×	×	×	×	×	▲	×	
5	七尾市		□	□	▲		×	×	▲	×	
6	七尾市			×	▲	×	×	×	▲	×	
7	志賀町				□			×			
8	中能登町				□			×			
9	羽咋市			▲	□			×			
10	津幡町				▲	□	×	×			
11	内灘町							×			



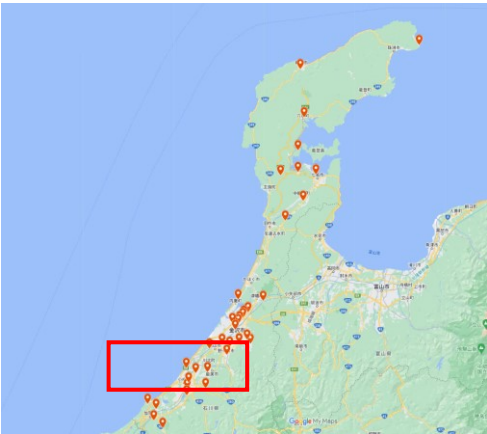
【情報確認活動】 各施設の被災状況

	施設住所	電話連絡	入所者	職員	建物	ライフライン					
						電気	ガス	水道	食料	暖房	その他
12	金沢市			▲	▲						
13	金沢市				□						
14	金沢市										
15	金沢市							□			
16	金沢市		□	▲	▲						
17	金沢市										
18	金沢市		□	▲	▲			▲			入浴×
19	金沢市				□		×				入浴×
20	金沢市			□	□			□			
21	金沢市				□			▲ (お湯×)			入浴×
22	野々市市				□						



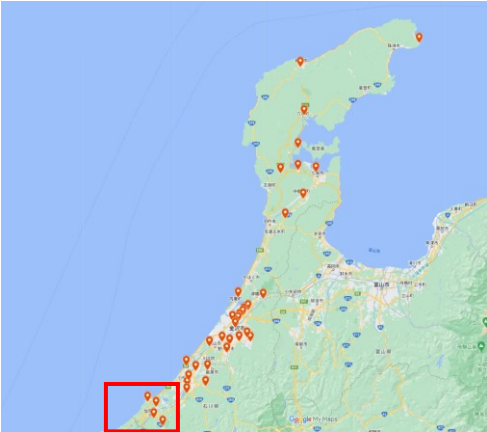
【情報確認活動】 各施設の被災状況

	施設住所	電話連絡	入所者	職員	建物	ライフライン					
						電気	ガス	水道	食料	暖房	その他
23	金沢市										
24	白山市				□						
25	白山市				□		×				
26	野々市市				□						
27	能美市				□						
28	能美市				□						
29	能美市				□						
30	小松市				-						
31	小松市				▲						
32	小松市				□				□		
33	小松市				□						



【情報確認活動】 各施設の被災状況

	施設住所	電話連絡	入所者	職員	建物	ライフライン					
						電気	ガス	水道	食料	暖房	その他
34	加賀市										
35	加賀市				▲						
36	加賀市						□				
37	加賀市										



## 各施設の被災状況【珠洲市内の老健】

- 1/7まで全く連絡とれず。最初の4日間は全くの孤立状態
- 水道、ガス、電気、電話不通。電気は1/7、電話は17日に復旧
- 老健入所者100名 GH18名 +近隣の避難者2名
- 出勤可能な職員は半数程度、7日間連続勤務職員4名。
- 2階居室は使用できず1階デイケアのホール等に避難。
- 飲料水は定期的に自衛隊が提供
- 食事は非常食を1日3食提供。
- 1/10よりご利用者移送を開始
- 22日 全員避難完了。サービス休止
- 現在も休止中

## 各施設の被災状況【穴水町内の老健】

- 連絡がとれたのは1/10。
- 利用者52名 （被災後56名のうち4名死亡）
- 職員 2名は出勤不可
- 殆どの職員が避難所から出勤。通勤困難で3～4日勤務して3～4日休む。
- 水道、電気、電話、に加え 館内配管破断の為、空調使えず。水道は自衛隊からの給水。生活用水は雨水。
- 食事は災害食。ガスは従来から使用していない。
- 1/9に電話が復旧するまでご家族への連絡はできず。
- コロナやノロ感染数回発生
- 上水道設備復旧は5月半ば、下水道復旧は7月。

## 各施設の被災状況【七尾市内の老健】

- 利用者100名
- 職員2名出勤できず（1名は孤立）
- 斜面側に立つ認知棟の基礎がむき出しになり建物は傾いている。
- 危険なためデイケアルームに移動。
- 水道、ガス、電気、電話、空調使えず。
- ガスは1/5、電話は1/6に復旧
- 1/10 利用者の避難を決意。
- 1/20 北陸三県への避難困難となりDMATに打診され避難中止。
- 上水復旧5月半ば、下水道復旧6月半ば。
- 認知症棟28床が使用できず、4人→5人部屋とすることで89名まで受け入れ対応可に。
- 現在の場所は安全ではない為、移転を検討。

## 各施設の被災状況【輪島市内の老健】

- 利用者95名うちターミナル4名
- 出勤可能な職員は半数以下
- 夜勤増員で対応。
- 水道、ガスが停止。電気は1階のみ使用可能、ガスは1/6に復旧。
- 水はペットボトルおよび受水層へ、生活用水は雨水や雪を貯めてトイレに使用。
- 建物損壊甚大。被害の少ないデイケアのスペースに避難。
- 1/13 利用者移送開始 1/20ターミナルの方以外は避難完了。
- 1/23 看取りを希望されていた利用者、お亡くなりになる
- 1/31 サービス提供休止
- 2/7 輪島市委託により福祉避難所になる。
- 事業再開はまったく見通しが立たない

## 各施設の被災状況【輪島市内の老健】



## 各施設の被災状況【輪島市内の老健】





## 各施設の被災状況【輪島市内の老健】



## 各施設の被災状況【輪島市内の老健】



## 各施設の被災状況【輪島市内の老健】



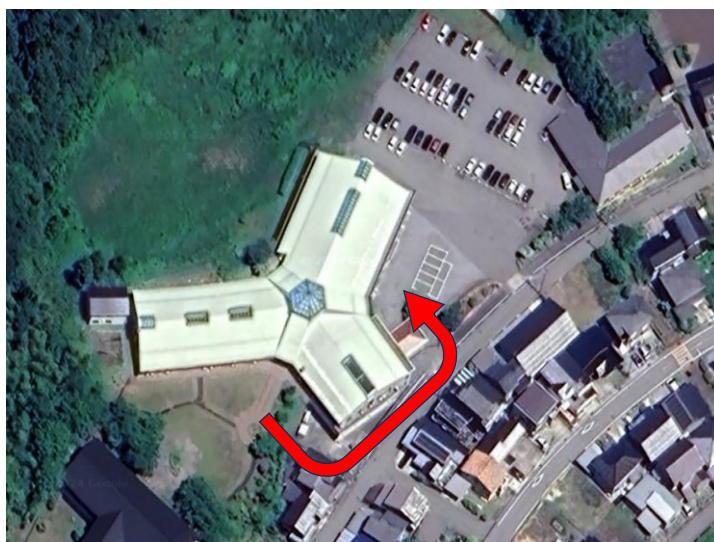
## 各施設の被災状況【輪島市内の老健】



## 各施設の被災状況【輪島市内の老健】



## 各施設の被災状況【輪島市内の老健】





## 各施設の被災状況【輪島市内の状況】



## 各施設の被災状況【輪島市内の状況】



## 各施設の被災状況【輪島市内の状況】



## 各施設の被災状況【輪島市内の状況】



## 【物資配送活動】

- 1月5日 全老健事務局来設  
今後の支援活動についての打ち合わせ実施
- 金沢市内の春日ケアセンターを配送拠点として物資配送を行う
- 1月6日から本格的に物資配送を開始  
6月半ばまで継続



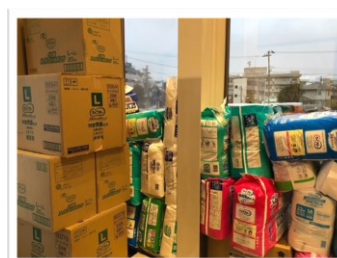
## 【主な配送物資 断水により必要となったもの】

### <食事関連>

- 飲料水
- Disposable 食器
- 紙コップ
- おやつ
- 栄養補助ゼリー
- 箸
- スプーン

### <排泄・入浴関連>

- オムツ類
- ビニル袋
- トイレの凝固剤
- おしり拭き
- 清拭用 Disposable タオル
- トイレットペーパー
- タオル
- バスタオル



## 【主な配送物資 建物・設備損壊によるもの】

<暖を取る為のもの>

- 毛布
- 使い捨てカイロ
- 灯油

<建具簡易補修>

- ブルーシート
- 緩衝材（エアキャップ）
- 養生テープ



## 【主な配送物資 その他避難生活に不足したもの】

<衛生関連>

- 消毒液
- PPE
- マスク

<被災者受け入れ>

- ベッドマット
- 衣類
- ダンボールパーテーション



【道路状況】





## 【被災利用者の各施設での受け入れ支援】

多くの被災施設がサービス継続困難

利用者の大規模避難が必要な切迫した状況に

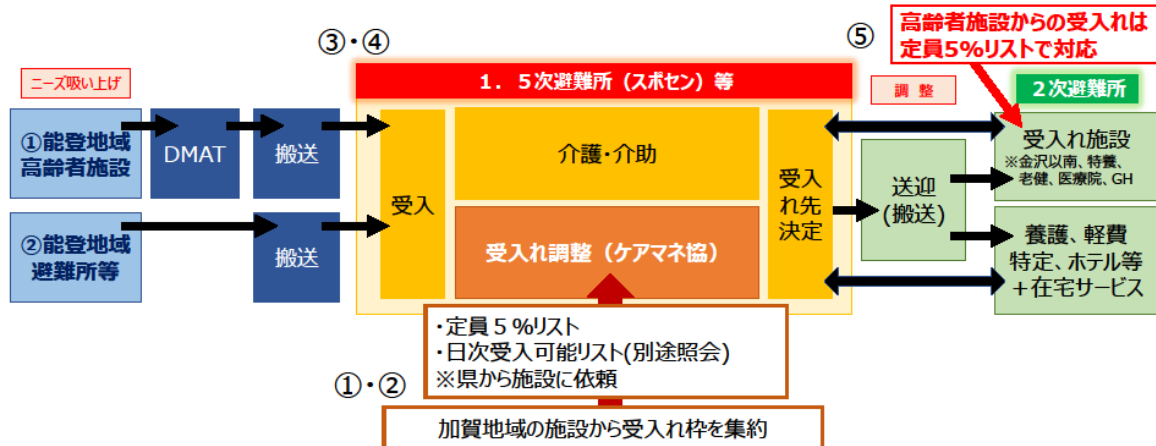
1月8日 1.5次避難所開設（いしかわ総合スポーツセンター）

1月9日 石川県の要請により被災施設利用者の受け入れが県内施設で開始

※入所定員を超過して入所定員の **5%** の受け入れ要請

### ■ R6能登半島地震 要介護高齢者避難スキームについて

- ① 加賀地域の特養・老健・介護医療院・GHに対し、定員超過を前提とした能登地域の施設入所者受け入れ枠設定を依頼（定員の5%程度） … R6.1.9付け長第3423号
- ② ①を除き、定員の空床や、更なる定員超過可能分を照会 … 後日照会
- ③ 能登地域の施設入所者について、DMATの調整により必要性に応じて1.5次避難所等に一時入居
- ④ 加賀地域の特養等に対し、県（ケアマネ協に依頼）がスクリーニングし、施設に個別に入所を調整
- ⑤ 受け入れ先が決定したら、順次受け入れ（原則、受け入れ先施設が送迎）



## 【被災利用者の各施設での受け入れ支援】

- 初期はD - MATより各施設に対して直接の受入れ要請。
- 県で移送手段が手配できない場合、受入れ施設が移送も。
- 1週間後には県内施設の受入れ枠が枯渇、県からは更に5%の追加受け入れ要請
- 県内施設の限界
- 医療機関への影響
- 県外への避難開始

## 【活動する中で難しかった点】

石川県との連携について

- 長寿社会課と連携をとり活動を行ってきたが、県庁内にも混乱がみられ関係各所との調整等に時間を要していた様子。
- 協議会で取りまとめた情報を随時提供していたが、県からフィードバックを行うには難しい状況にあり現在の状況がみえず対応に苦慮した。
- 県の指示が市町と共有されておらず対応に困ることがあった。
- 結果的に独自で先行して動きながら、事後に県に報告を行った。

## 【活動する中で難しかった点】

### 物資配送について

- 発災直後は、飲料水、ポリタンク、ブルーシートなど中心に市中の量販店から品切れが起き入手が困難であった。ネット通販も在庫切れがみられた。
- 半島という地理的問題。主要道路の遮断、路面の亀裂や断裂等、大規模な交通規制および降雪による渋滞の中を配送
- 被災施設のニーズが日々変化し、物資入手のタイミングが合わず間に合わないこともあった

## 【活動する中で難しかった点】

### 被災者受け入れについて

- 人命第一で避難を優先する必要がある、乏しい利用者情報での受け入れをせざるを得なかった。
- 天候や道路事情により公的な移送が追い付かず、受入れ施設が移送を行う必要があった。
- 避難初期は施設種別のマッチングが行う余裕がなく、受け入れ後にトラブルになることもあった。
- 定員超過しての避難受け入れに際し、療養場所やプライバシー確保に苦慮した。
- 被災者を受け入れる為の人材の不足

## 【今後の課題】

- 災害時対応の施設間ネットワークと相互支援システムの構築が必要
- 被災利用者の他施設避難がいつまで続くか人的資源も含めて各施設がどこまで対応できるか
- 休止中施設の職員雇用継続について退職者の発生と施設再開時の人材確保の課題等
- 能登施設の再開が見えない中、県外施設への避難している利用者の戻しをどうするか
- 高齢化、過疎化が進んでいた能登地域の復興と人が戻ってくるかどうか。その中で老健施設の役割とは。

## 【BCPの有効性について】

# 1. まずは対策本部の立ち上げ

大規模事故・災害への体系的に必要な項目：CSCATTT

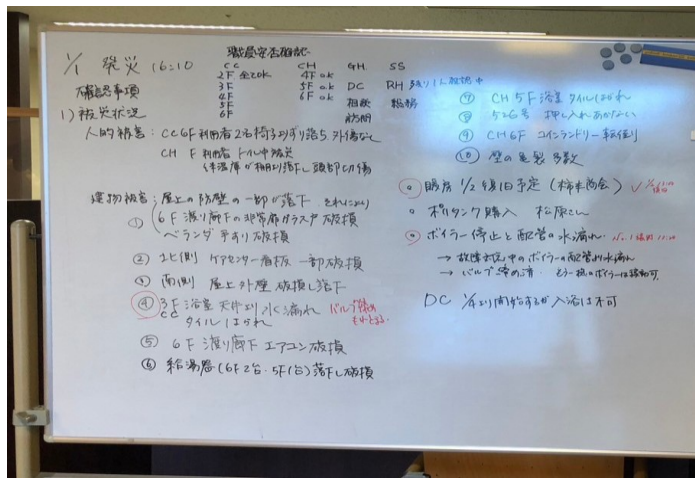
C : Command and Control  
S : Safety  
C : Communication  
A : Assessment

指揮・統制  
安全  
情報伝達  
評価

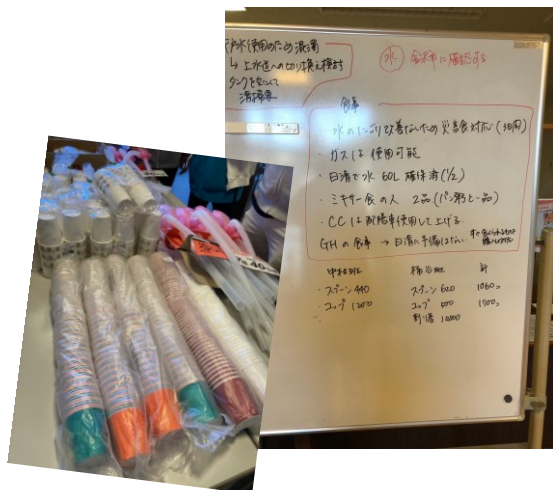


- ▶ C:指揮命令系統を確立・確認する
- ▶ 組織として活動するためには指揮命令系統に従うことが効率化に繋がる
- ▶ 自分は誰の指揮下に居て誰に報告をすればいいのかを明確にすることが災害時には大切な情報共有の順序に繋がる
- ▶ S:安全：3つのS
  - 自分自身 (self)    現場 (scene)
  - 生存者 (survivor)
- ▶ C:組織と組織の情報交換やチーム内での情報交換
- ▶ 災害時には情報伝達が難しく重要
- ▶ A:現状を把握して今後の方針を決める

# 2. 被災状況の把握と対応（人的被害・建物被害）



### 3. 設備・ライフラインの損傷に対応

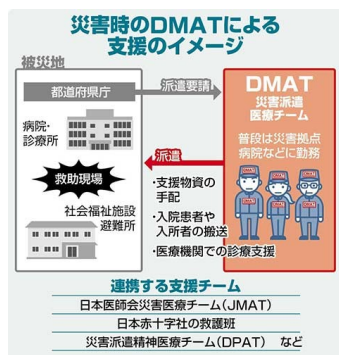


- ・電気・ガス・水道の停止の影響
- ・冷暖房停止、夜間照明なし、暗がりを利用者に危険、ベッド昇降停止、PC使用不可、EV使用不可、食事提供不可、飲料水不足、生活用水不足による入浴停止、トイレ使用不可、換気不可など生活・環境全般に影響

飲用水の確保には苦劳しました。  
特に水を人力で上の階まで上げることが大変でした  
⇒備蓄の保管場所どこにするかはとても大事だと感じました

### 4. マンパワーの確保

介護施設は、災害時であっても「通常通り」の施設の役割維持ができることが大前提



- ・被災施設の職員も被災者であることを考えると、災害時におけるマンパワーの確保は施設内外を見越した確保・調整が必要となってくる。
- ・全国各地の団体等による大規模な連携によるものや交流のある施設、関係業者等の身近な連携を受けることになるが、日々変化する被災生活に即した調整が求められる

## 5. 福祉避難所としての役割を求められる



- 被災した施設は入所者だけでなく、通所利用者や近隣在住の要配慮者の緊急避難場所としての役割も期待されます。通常業務と緊急避難先としての2つの機能を運営することが求められます。
- しかし職員も被災した状況下で新たな機能を加えた施設のマンパワーを維持・調整することは極めて厳しい
- 避難者の介護を担えるマンパワーが必要

【千葉県老健施設で働く皆様に】

## 【終わりに】

能登半島地震に際し、千葉県を始め全国の皆様から多大なるご厚意・ご支援を賜りましたこと感謝申し上げます。